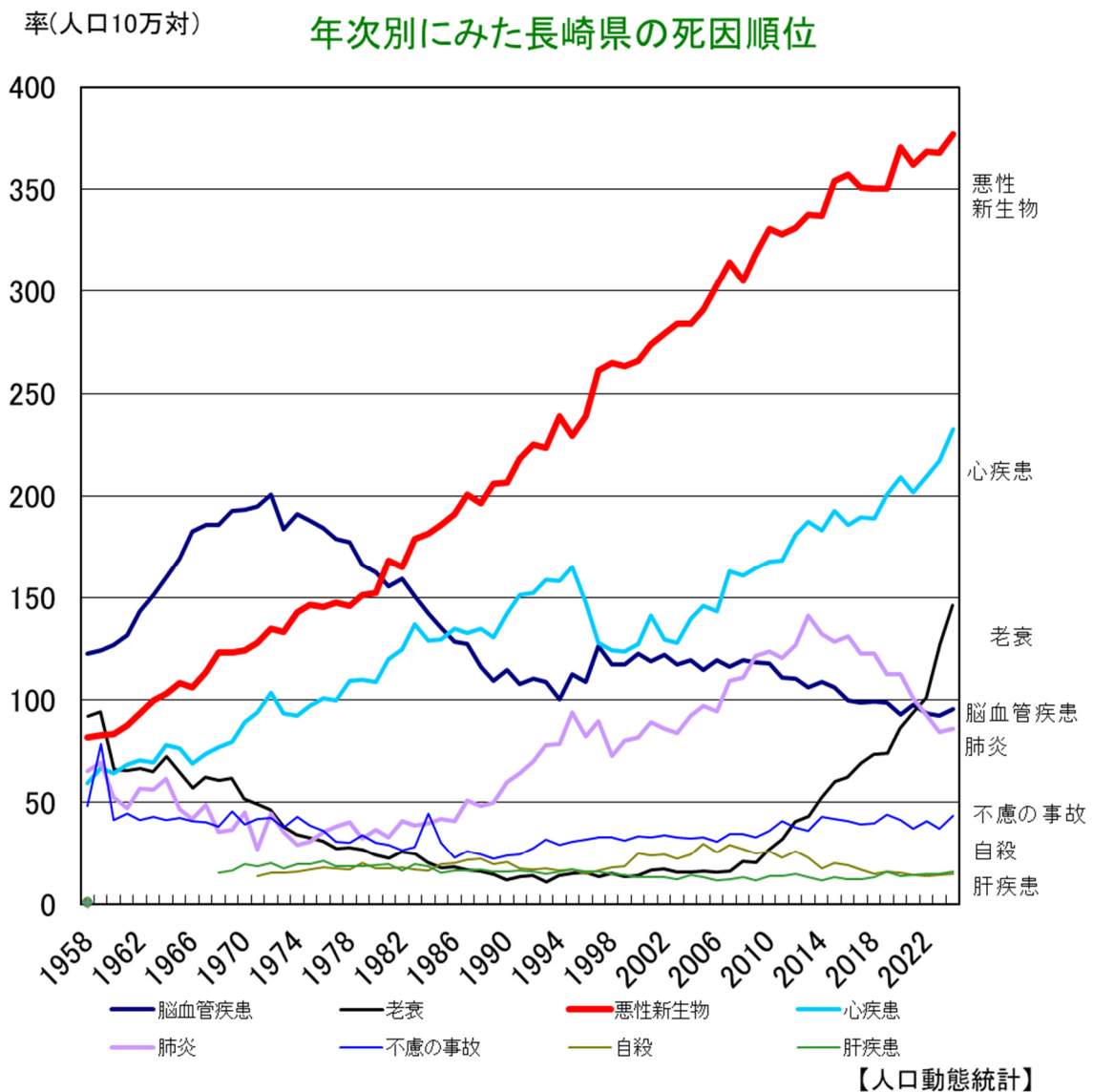


## 第2章 長崎県のがんの現状とこれまでの取組

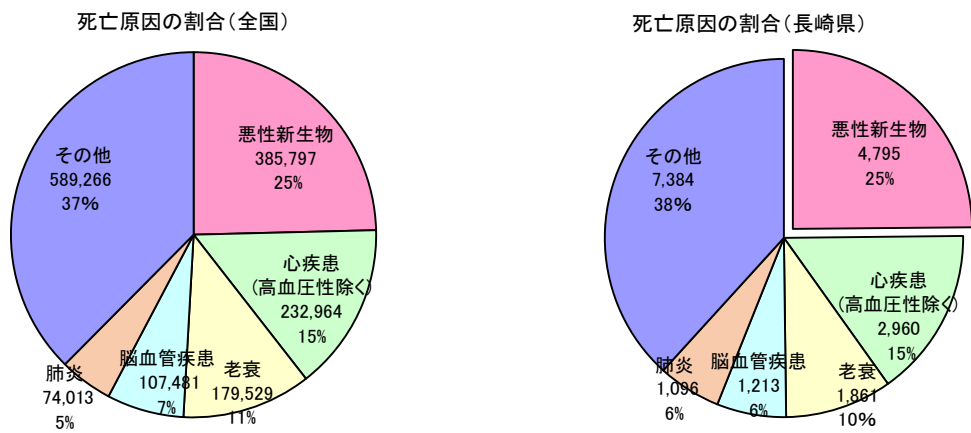
### 1. がんの現状

#### (1) 長崎県の死因別データ

- 本県では、昭和54年にがんが死亡原因の1位となり、昭和60年には、がん死亡率が全国ワースト1位となりました。以来がんの死亡率は年々増加しております。

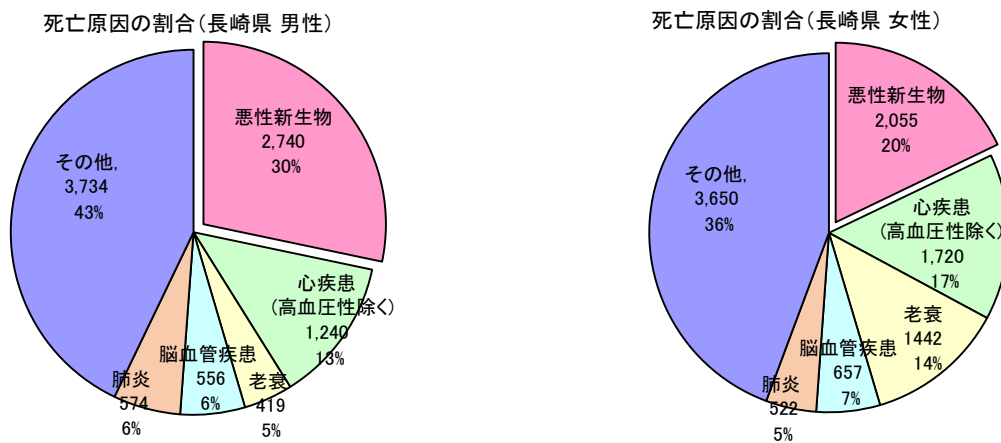


■ 全国の死因別死亡者数割合の第1位は、がんで25%、次いで心疾患15%、老衰11%、脳血管疾患7%、肺炎5%の順で、本県もほぼ同じような状況です。



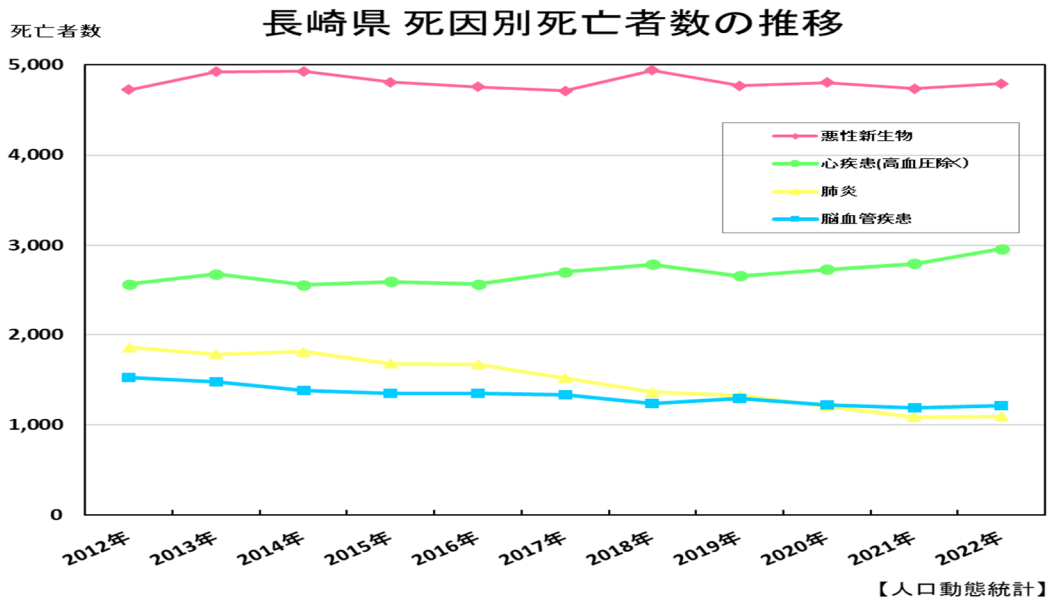
【人口動態統計】

■ 長崎県は、がんで死亡する割合を男女別で見ると、男性30%、女性20%となっており、男性ががんで亡くなる割合が高くなっています。

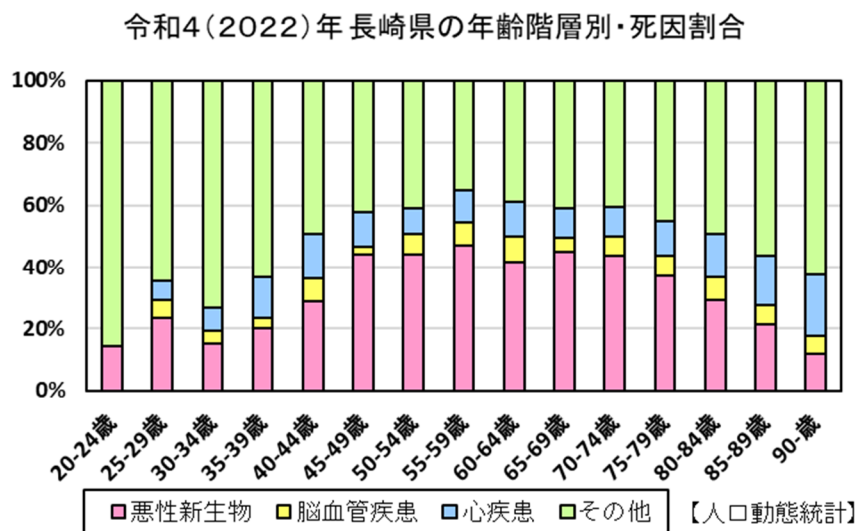


【人口動態統計】

- 長崎県の死因別の死亡者数の推移をみると、がん（悪性新生物）は、近年はほぼ横ばい傾向にあります。心疾患は増加傾向、肺炎や脳血管疾患は減少傾向で推移しています。



- 長崎県では、がんが原因で亡くなる人の割合は、全国と同様、若年層から一定現れており、50歳を超え、79歳までの長期間、死因の40%程度を占めています。

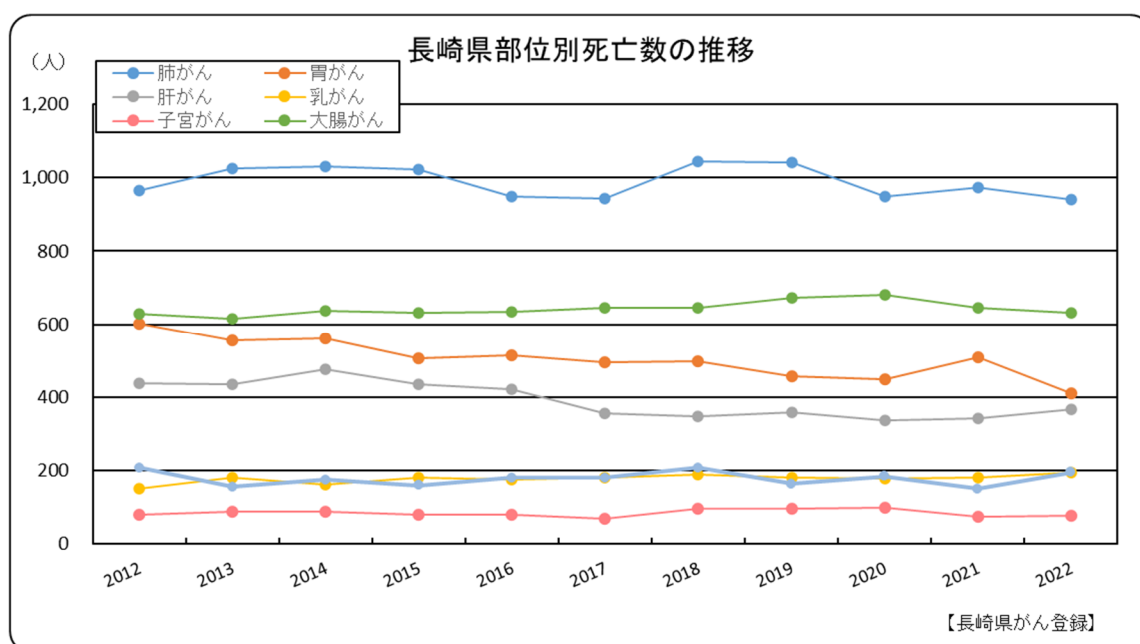


## (2) がんの死亡状況

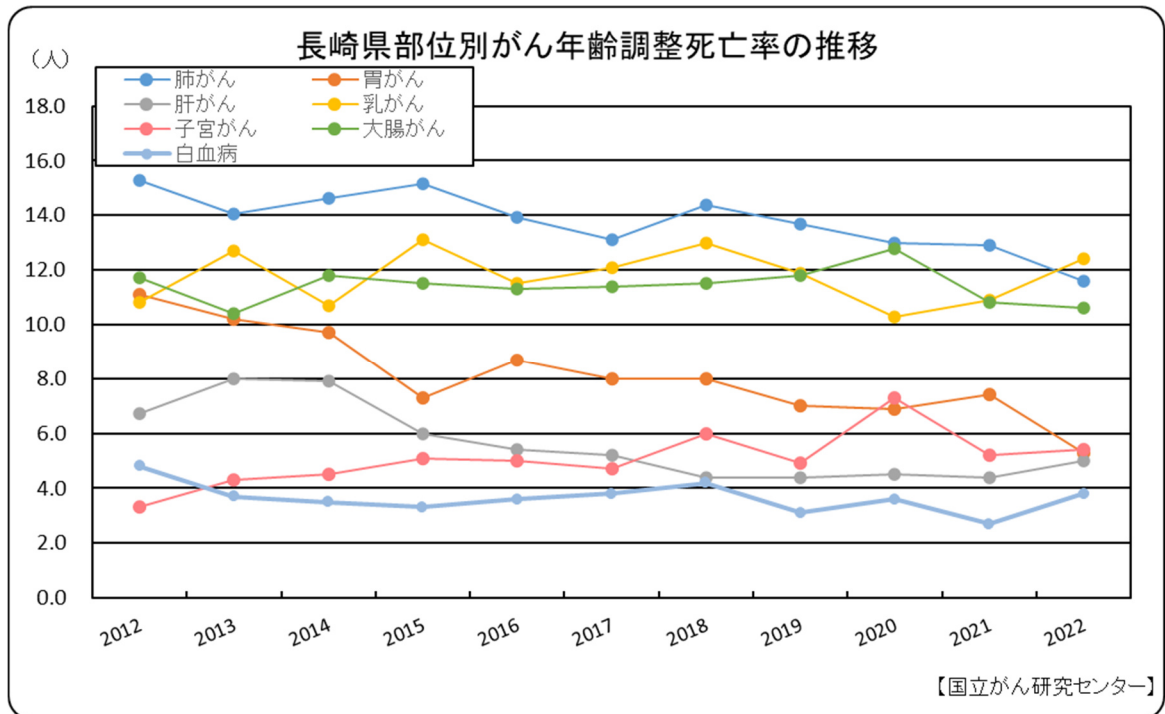
- 長崎県のがん部位別の死亡者数は、令和4年で肺がんが一番多く941人、大腸がん631人、胃がん410人、肝がん366人となっています。

なお、長崎県は、ATL（成人T細胞白血病）で亡くなる方が多く、白血病死亡者数の中にATL死亡者が含まれています。

※成人T細胞白血病／リンパ腫（ATL：adult T-cell leukemia-lymphoma）は、ヒトT細胞白血病ウイルス1型（ATL：adult T-cell leukemia virus type-I:HTLV-1）というウイルス感染が原因で、白血球の中のT細胞に感染し、感染したT細胞からがん化した細胞（ATL細胞）が無制限に増殖することで発症します。

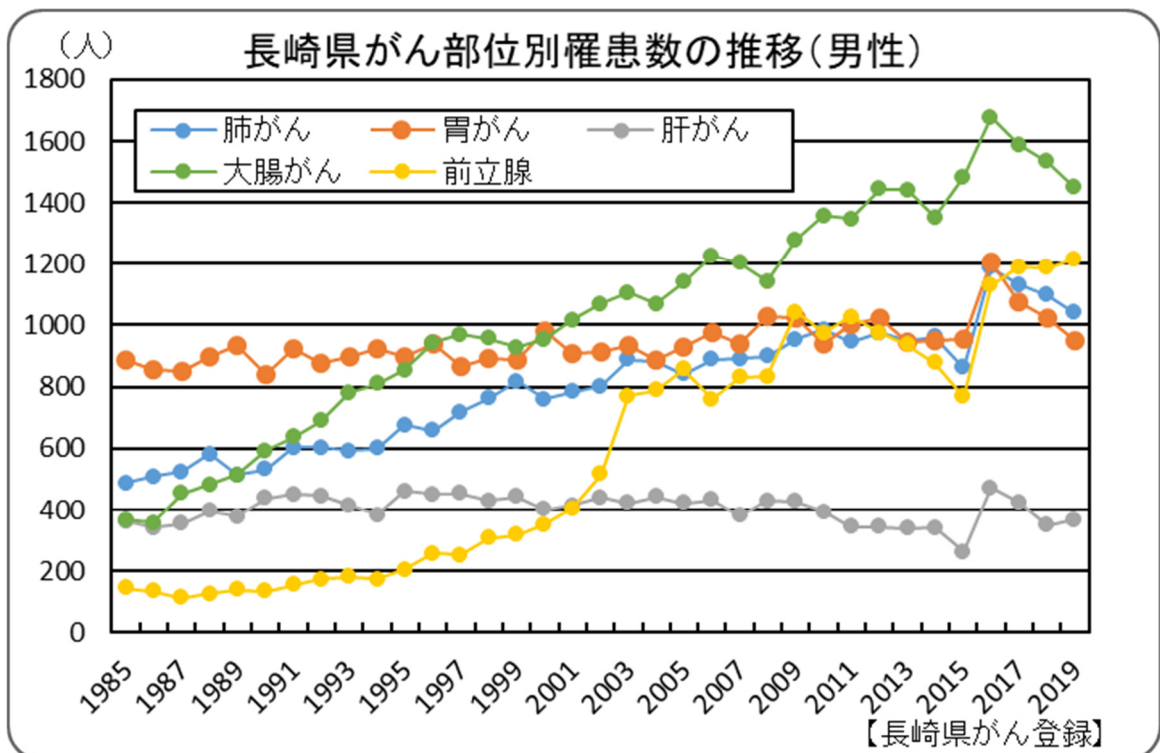


- 長崎県のがんの75歳未満年齢調整死亡率は、令和4年で人口10万人当たり、72.5と全国平均の67.4を上回っており、全国ワースト11位と高い位置にあります。部位別でみると、白血病が1位、肝がんが2位、乳がんが4位となっています。

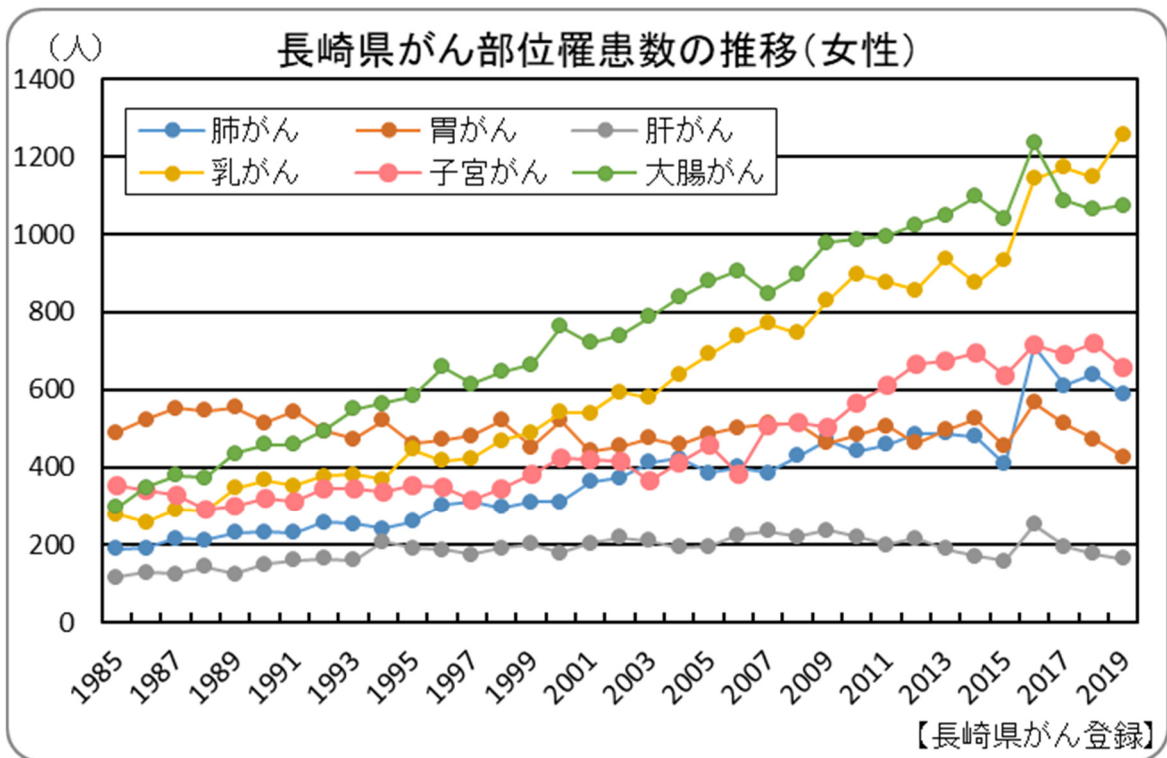


### (3) がんの罹患状況

- 長崎県の男性のがん罹患患者数は、大腸がんと前立腺がんが増加しており、肺癌も増加傾向にあります。胃がんと肝がんはほぼ横ばい状態です。



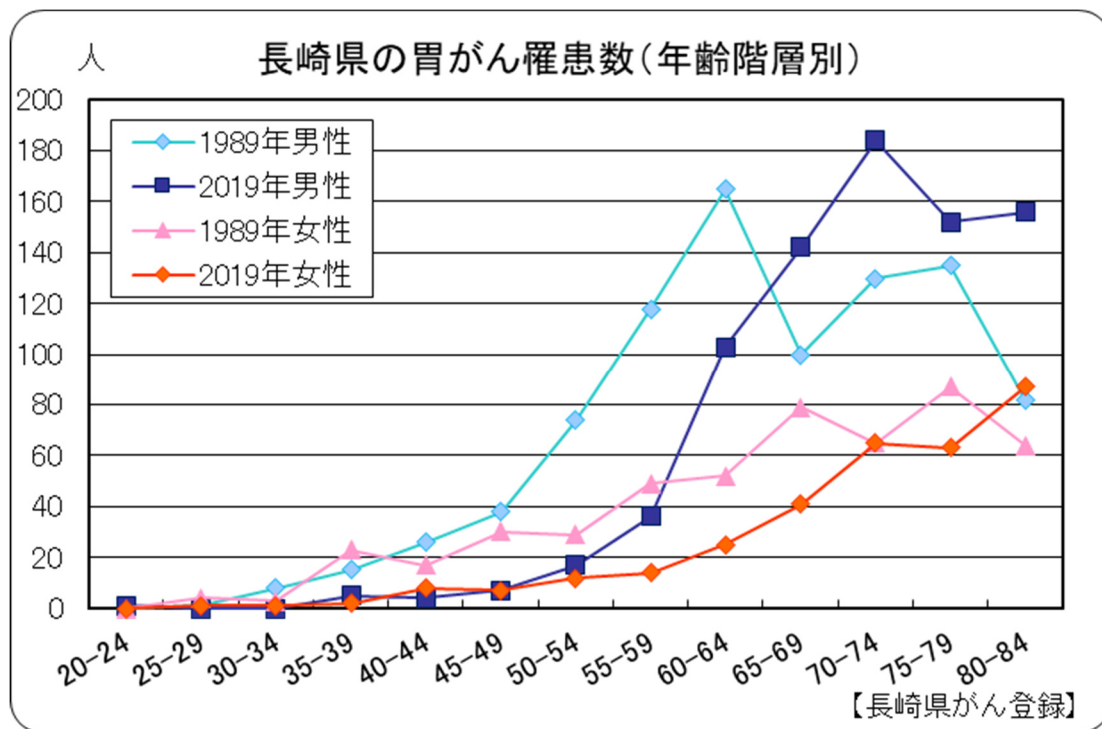
- 長崎県の女性のがん罹患数は、大腸がん、乳がんが増加しており、子宮がん、肺がんも近年増加傾向にあります。



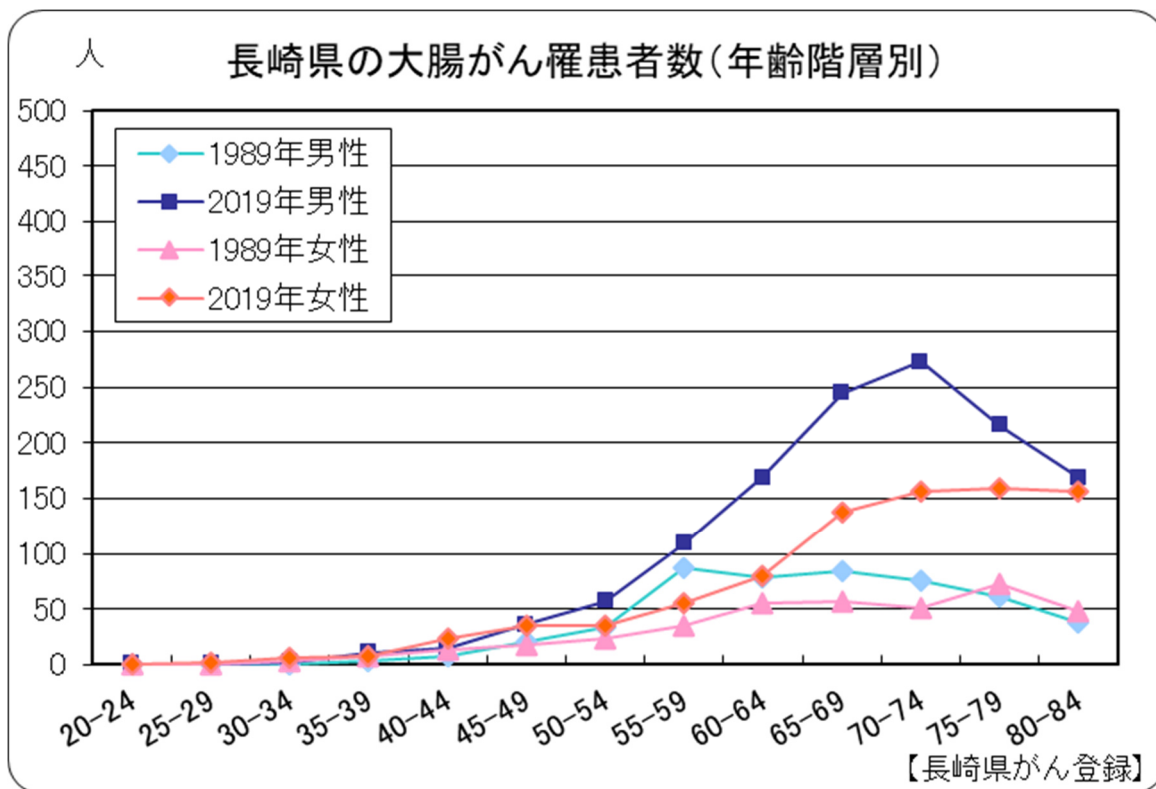
- がん種別ごとに罹患の状況を平成元年と令和元年で比較すると、胃がんでは、男性の罹患のピークが、平成元年は60-64歳だったのに対し、令和元年は70-74歳となり、罹患者が高齢化している傾向にあります。

女性での比較では、65-69歳までは各年齢階層別で罹患者は減少していますが、50歳代から罹患者が増加する傾向は続いています。

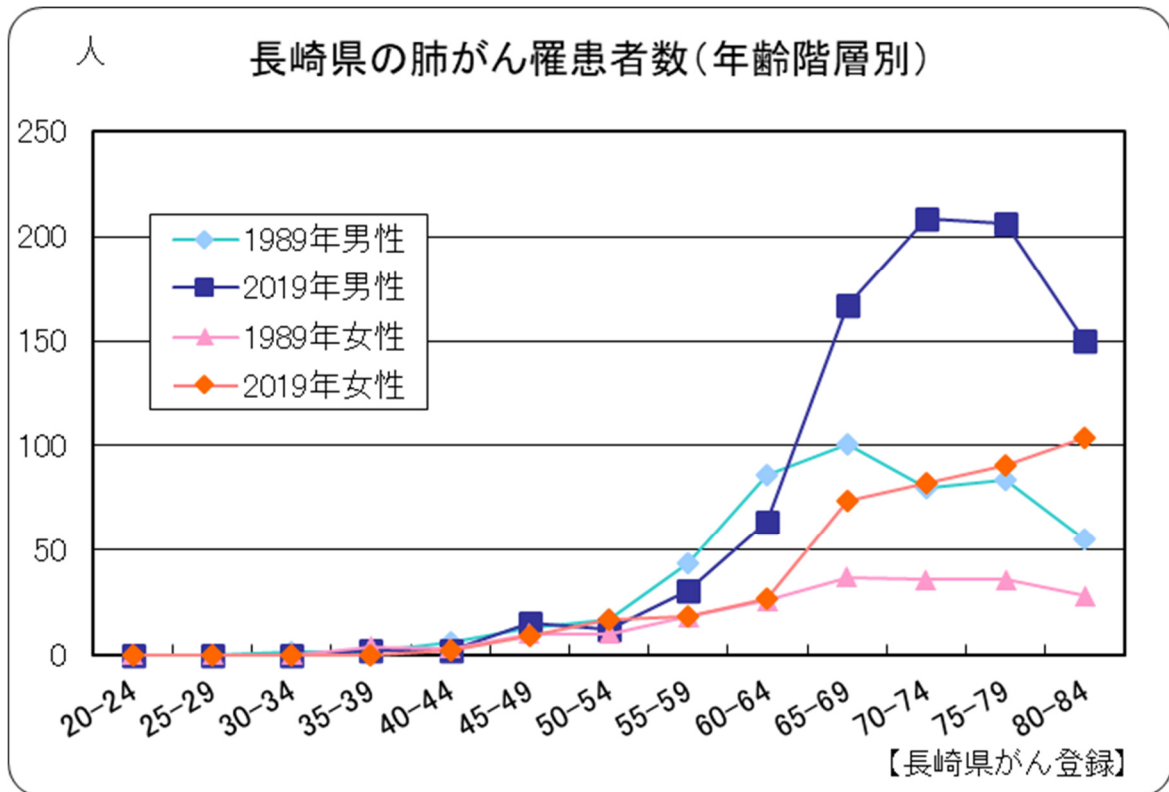
胃がんの発症リスクのひとつにヘリコバクター・ピロリへの感染があげられますが、上水道の整備など衛生環境の改善もこのような年齢分布の変化をもたらした要因のひとつと考えられます。



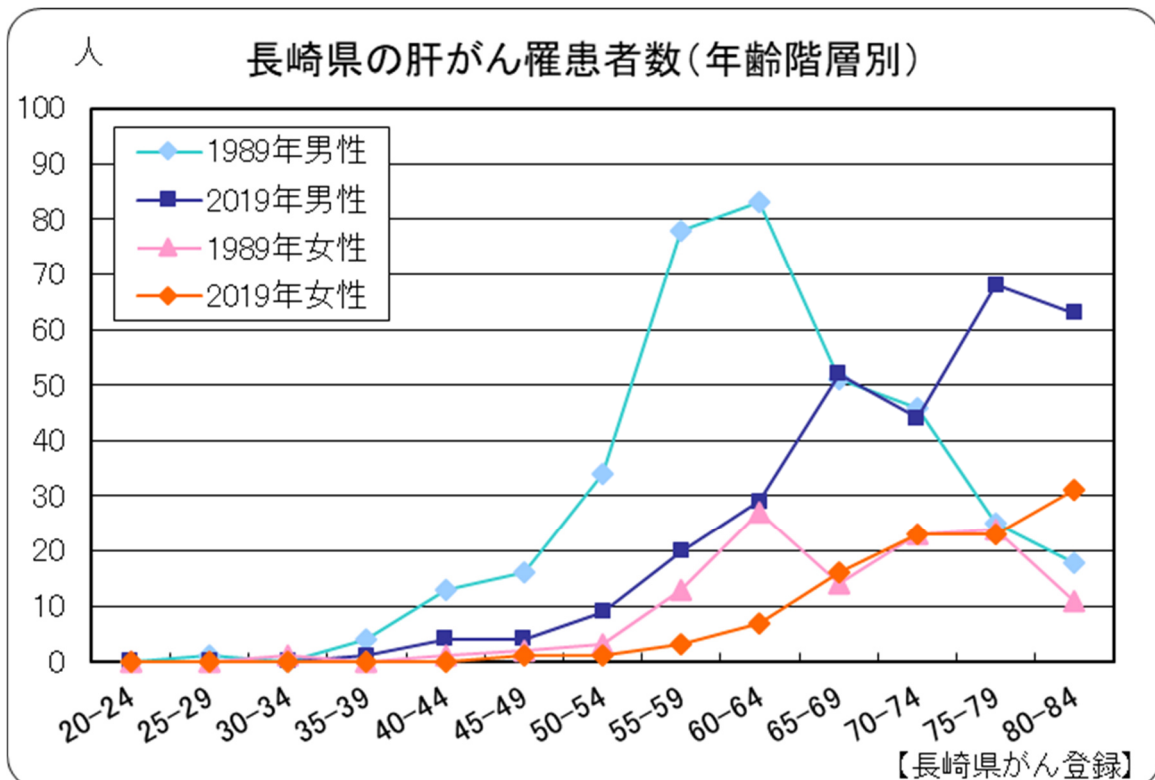
■ 大腸がんは、男女ともに50歳代から急増しています。大腸がんの発症リスクは、生活習慣の影響が大きいといわれています。動物性脂肪を多く摂る食の欧米化の影響等が考えられます。



- 肺がんは、男性で50歳代後半から急増し、高い状態が続いています。女性も平成元年と比べ、増加傾向にあります。喫煙や受動喫煙も発症リスクを高めますが、高齢化の影響も考えられます。

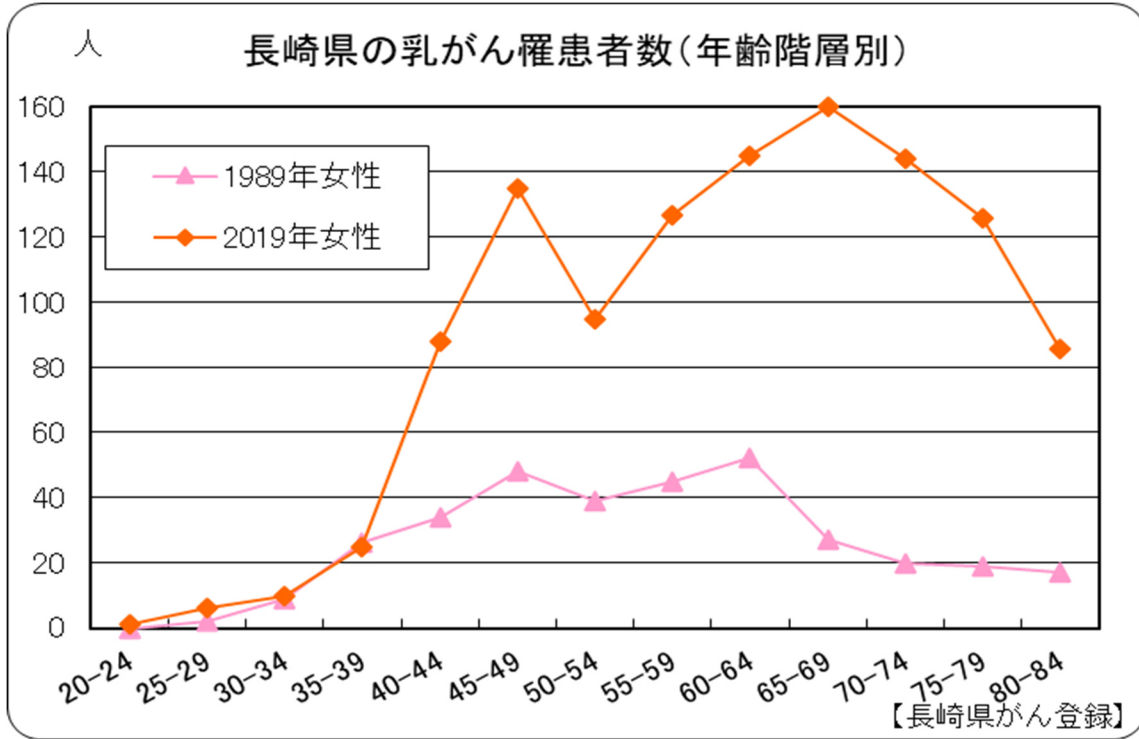


- 肝がんは、男女ともに60歳代前半までの各年齢層で罹患患者数が減少していますが、ウイルス性肝炎対策を実施していることが大きな要因の1つと考えられます。

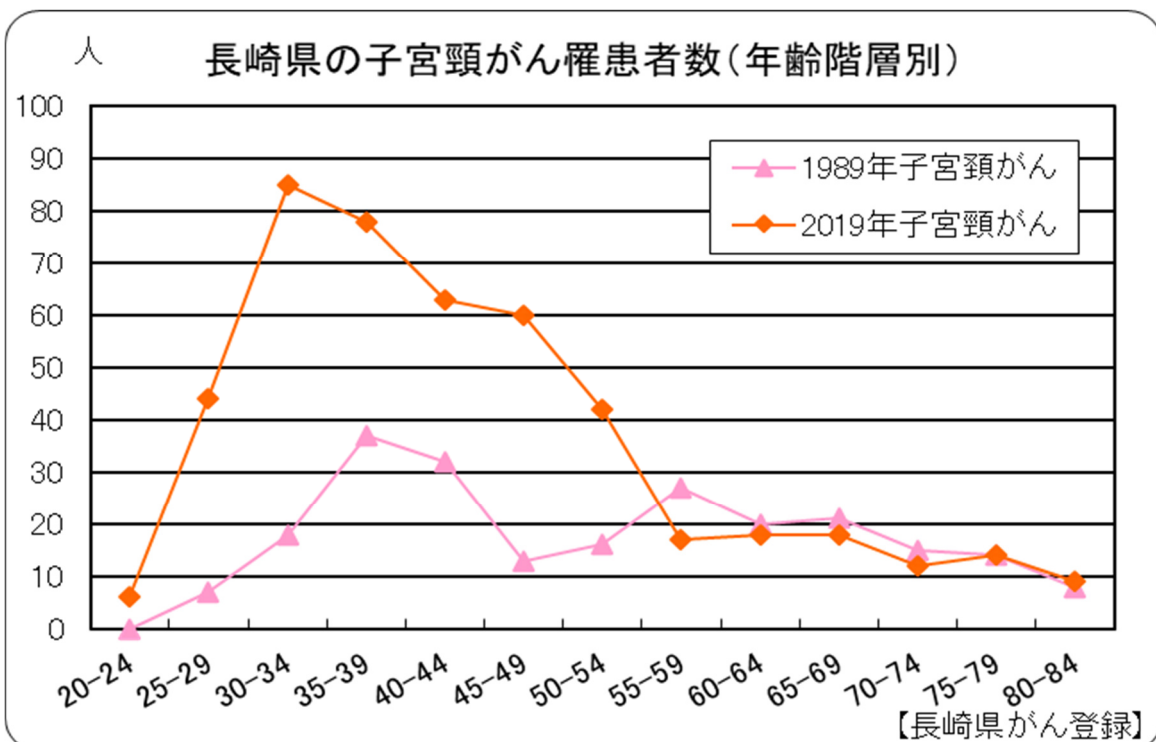




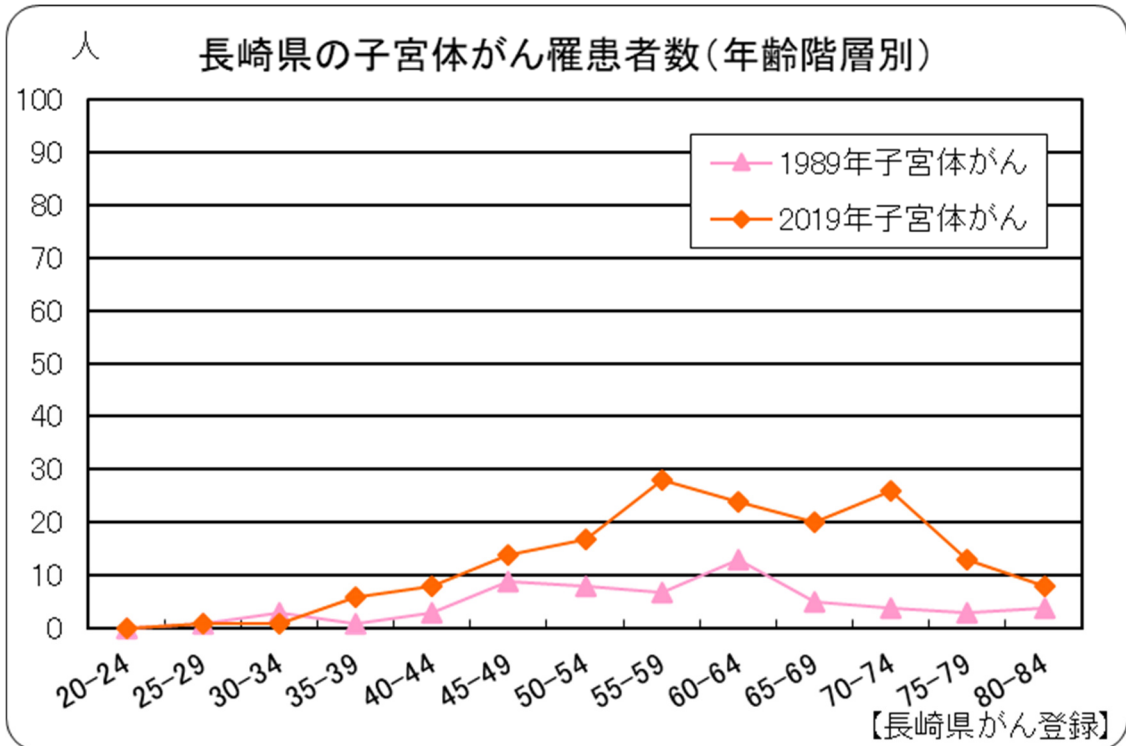
- 乳がんについては、40歳代後半から罹患者数が増加しはじめ、65-69歳でピークを迎えています。40歳代以降の各年齢層で罹患者数は、大幅に増えています。食生活の欧米化に加え、晩婚化、少子化などライフスタイルの変化の影響も考えられます。



- 子宮がん関係では、子宮頸がんの発症が20歳代後半から急増し、30歳代でピークを迎えています。子宮頸がんは、性行為を開始する年齢の低年齢化等による発症が大きく数値を引き上げていると考えられます。

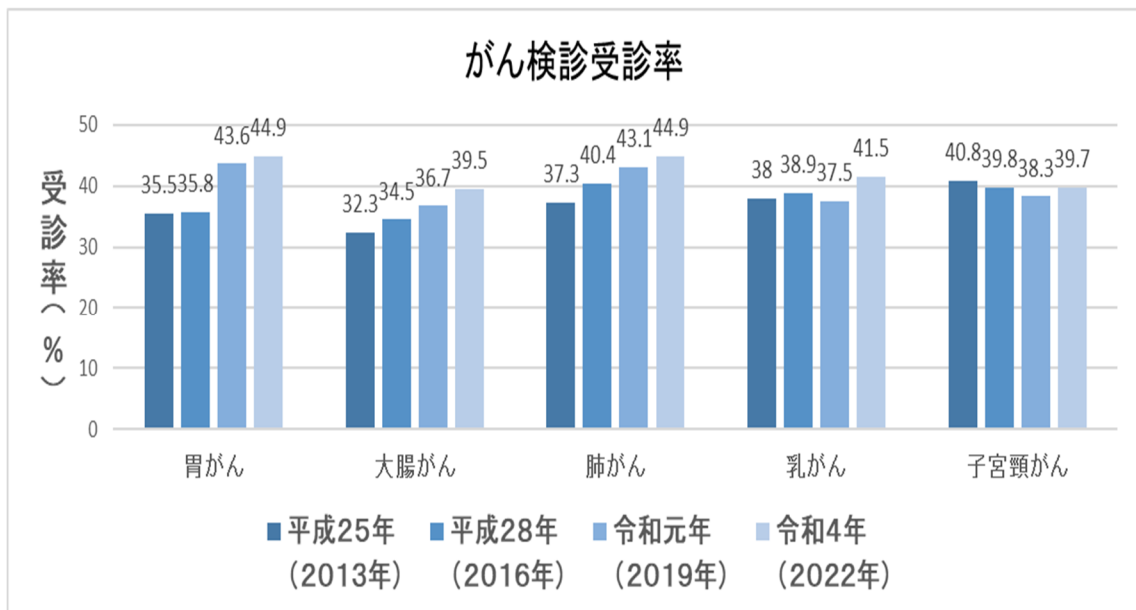


- 子宮体がんは30歳代後半から罹患者が増加している傾向にあります。



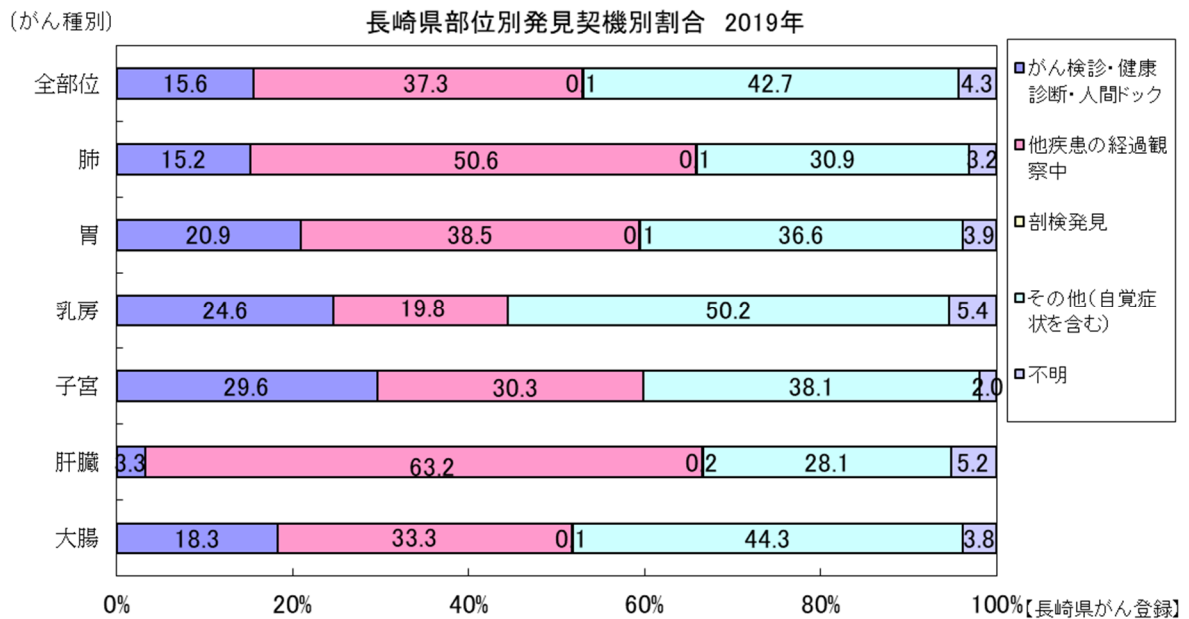
#### (4) がん検診

- がんの二次予防であるがん検診の受診率は、30～40%台となっており、全国順位では胃がん41位、大腸がん44位、肺がん40位、乳がん44位、子宮頸がん40位と低い結果となっています。

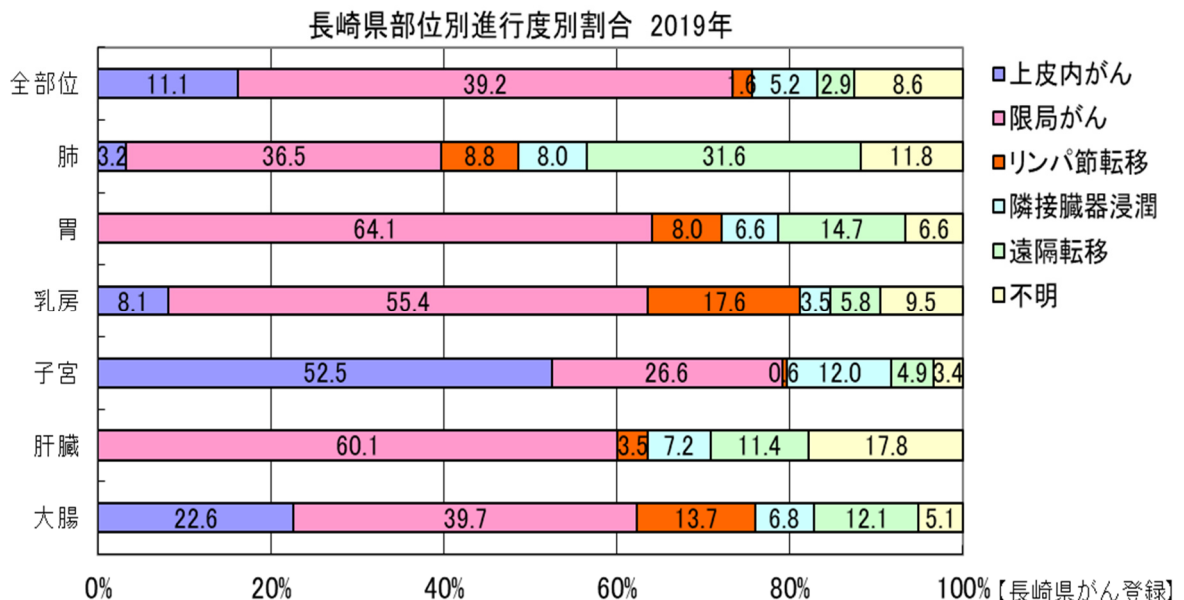


(国民生活基礎調査)

■ 部位別発見契機別の割合を見てみると、がん検診等で発見されている割合が高いのは子宮がんとなっています。



■ 部位別進行度別の割合を見てみると、肺がんが遠隔転移の割合が多く、進行している状態で発見されていることがわかります。



上皮内がん：上皮に発生したがんが間質に浸潤することなく発生源となる上皮内に留まっているきわめて早期のがん。浸潤がんとは区別するためにこの用語がある。  
※胃がん、肝臓を除く

限局がん：がんが発生源となる臓器／器官内のみ存在し、隣接する臓器への浸潤或は近く（領域）のリンパ節に転移がないがん。

他臓器浸潤／転移を伴うがん：がんが発生源となる臓器／器官を越えて隣接する臓器へ浸潤したり、リンパ節への転移を伴ったり、他の臓器／器官に転移しているがん。

## 2 がん対策の取組

- 本県のがん対策は、昭和59年の老人保健法によるがん検診から本格的に始まりました。当時、道路等が未整備のため、検診機材を載せた車や胃がん検診車などが行くことができない地域のため、巡回診療船「しいぼると」（昭和59年～平成15年）を建造し、無医地区小離島地域等に住む県民のがん検診を行っていました。
- 昭和60年に、全がんの死亡率が全国でワースト1位になったことから、昭和63年に、がん対策の総合計画として「長崎県がん予防対策基本計画構想」を策定し、がん予防・がん検診の推進・がんの正しい知識の普及・がんに対する調査研究等を中心としたがん対策に取り組みました。
- 平成14年度に、地域がん診療連携拠点病院として、佐世保市立総合病院が、県内で初めて指定されました。現在は、県拠点病院1か所、地域拠点病院5か所の計6病院が指定を受けています。

### がん診療連携拠点病院の整備状況

平成14年 8月 佐世保市立総合病院（現：佐世保市総合医療センター）  
【佐世保県北医療圏】

平成14年12月 長崎市立市民病院  
（現：長崎みなとメディカルセンター）・長崎原爆病院  
【長崎医療圏】

平成17年 1月 長崎医療センター 【県央医療圏】

平成19年 1月 長崎県島原病院 【県南医療圏】  
長崎大学病院 ※県拠点病院 【長崎医療圏】

### がん診療連携拠点病院

平成13年8月に地域がん診療連携拠点病院の整備に関する指針が示され、がん診療の均てん化を目指し、平成14年3月から地域がん診療連携拠点病院の指定が開始されました。

拠点病院には、県拠点病院（県に1か所）と地域拠点病院（概ね医療圏に1か所）があります。

地域拠点病院は、自ら専門的ながん医療を行うとともに「地域がん診療連携協議会」を設置し、地域連携体制構築や研修会を開催。

県拠点病院は、「県がん診療連携協議会」を設置し、拠点病院に対する支援や専門的ながん診療を行う医師等の育成を行います。

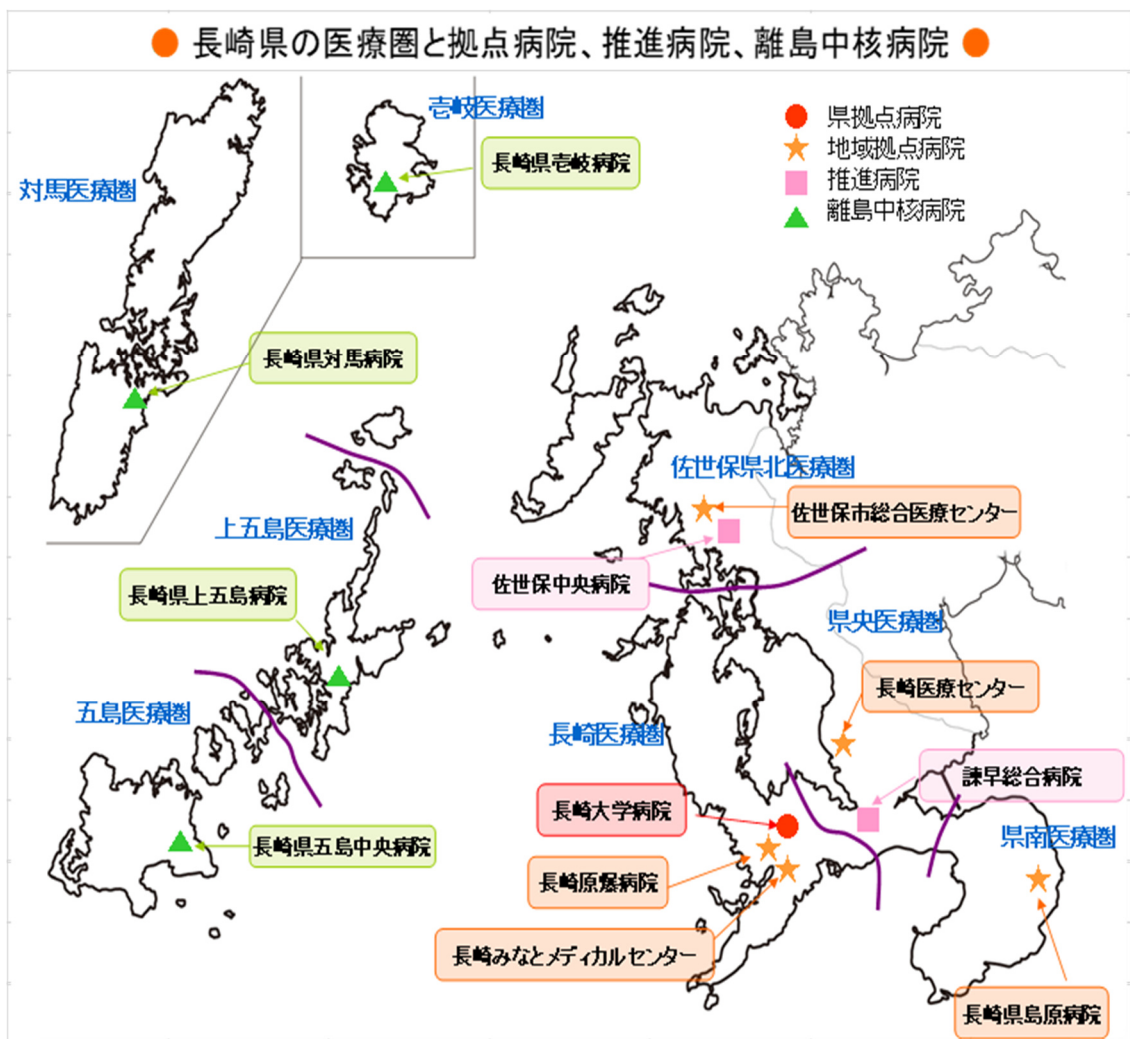
- 平成20年3月、国の基本計画を受け、県計画を策定しました。同年8月には、全国で5番目となる「長崎県がん対策推進条例」が施行されました。

- 平成23年1月、がん診療の連携を強化するため、推進病院として2病院が県の指定を受けました。

佐世保中央病院【佐世保県北医療圏】 諫早総合病院【県中央医療圏】

- 拠点病院や推進病院が無い離島の医療圏域については、がん診療を担う4病院を離島中核病院と位置づけ、離島地域におけるがん診療の質の向上を図っています。

長崎県五島中央病院【五島医療圏】 長崎県上五島病院【上五島医療圏】  
 長崎県壱岐病院【壱岐医療圏】 長崎県対馬病院【対馬医療圏】



- 県拠点病院である長崎大学病院では、地域拠点病院の役割に加え、拠点病院において専門的ながん医療を行う医師・薬剤師・看護師等に対する研修や症例相談、診療支援等を行うとともに、「長崎県がん診療連携協議会」を設置し、県レベルの研修会の計画や拠点病院間の調整・連携強化を図っています。

※長崎県がん診療連携協議会：県内のがん診療に関する情報の収集・発信、院内がん登録のデータ分析・評価、県レベルの研修会の企画・実施、地域連携クリティカルパスの推進等、県内のがん診療に関することを協議します。長崎県がん診療連携拠点病院（長

崎大学病院)に設置し、全拠点病院・推進病院・離島中核病院・各師会・長崎県等が参加しています。

- 地域拠点病院と推進病院は、地域におけるがん医療の連携の拠点となり、自ら専門的な医療を行うとともに、地域連携体制の構築や医療従事者への研修を行っています。
- 拠点病院、推進病院は、がん相談支援センターを整備し、地域のがん患者やその家族はもとより、県民に対するがんに関する情報提供や相談支援を行っています。
- 長崎県のがん対策は、長崎県がん診療連携協議会や、長崎県保健医療対策協議会がん対策部会（以下「がん対策部会」という。）において、対策の基本的な方向を決定していくこととしています。
- 長崎県がん診療連携協議会及びがん対策部会と長崎県の3者が密接な連携を図りつつ、がん対策を推進していきます。

